

総合計画審議会の審議体制について

1 次期総合計画審議会の審議体制について

【審議会と専門部会を設け、専門的かつ効率的で実効性の高い審議】

次期総合計画は、32の政策分野にわたり、本市の将来像及び行政運営の基本指針を定める極めて広範かつ専門性の高い計画です。そのため、限られた審議時間の中で実効性のある議論を行うためには、計画全体の方向性を議論する場「審議会」と、個別分野を専門的に議論する場「専門部会」に分けて運営することが必要であると考えています。

審議会

審議会では、市全体の将来像、基本理念、基本目標及び施策体系の整合性など、総合計画全体を俯瞰した総括的な審議を行います。

専門部会

一方、専門部会では、政策分野ごとの現状、課題、成果及び主要施策について、担当課の出席のもと具体的かつ実務的な議論を行います。

本市は広大な面積を有し、人口減少、高齢化、地域間格差、社会基盤の維持など複合的な課題を抱えており、各分野の状況や課題も多様化しています。このような状況においては、専門的知見や現場の視点を踏まえた詳細な検討が不可欠です。

したがって、審議会に専門部会を設けることにより、
 ①分野別の専門的・具体的な議論の深化
 ②計画全体としての整合性確保
 ③効率的かつ実効性の高い審議運営
 を図ることができるため、本方式を採用するものです。

2 総合計画審議会の委員体制について

【審議会は議論の継続性を重視した少人数体制で審議を行い、市民参画は専門部会で確保】

審議会委員

審議会は、次期総合計画における将来像、基本理念、基本目標及び施策体系全体の整合性を確認し、専門部会における検討結果を踏まえながら計画全体を審議する役割を担うものです。個別政策分野の詳細な検討を行う専門部会とは異なり、市政全体を俯瞰した視点から政策間の調整及び方向性の整理を行うことが求められます。

このような総括的審議を行う会議においては、多人数による意見表明型の運営よりも、専門的知見を有する委員による集中的かつ継続的な議論が可能な体制が適していると考えています。委員数が過度に多い場合、発言機会の偏在や論点の拡散が生じやすく、政策間の優先順位整理や合意形成に時間を要することが想定されるため、機動的かつ実効性のある審議運営を図る観点から、審議会は少人数体制で構成するのが適切であると考えています。

また、令和7年度においては、現行計画の進捗管理及び次期総合計画策定に向けた検証を実施しており、庁内担当課による整理、審議会委員による専門的視点からの検証、市民アンケートによる市民目線での評価という三つの視点から議論を重ねてきました。現行委員は、これまで総合計画の進捗管理と検証を通じて村上市の現状と課題、政策効果についての理解が蓄積されています。

次期総合計画は、これまでの検証成果を踏まえて策定するものであることから、計画策定の質及び議論の継続性を確保する観点から、現行計画の進捗管理と検証に携わった委員を審議会委員として再任するものです。

専門部会委員

専門部会は、次期総合計画における政策分野ごとの現状、課題、これまでの取組成果及び今後の主要施策について、担当課の出席のもと具体的かつ実務的な検討を行う場として設置するものです。総合計画は32の政策分野に及ぶ広範な内容を対象とすることから、分野ごとの専門性や現場の実情を踏まえた議論を行うことが不可欠です。

このため、専門部会には関係団体の代表者を委員として加えることとします。関係団体の参画により、制度や計画上の議論にとどまらず、現場の実態や実務上の課題を踏まえた実効性の高い施策検討が可能となります。

また、専門部会には審議会委員も配置し、計画全体の方向性や基本理念との整合性を確保しながら議論を進める体制とします。審議会委員が専門部会に参画することで、個別分野の検討内容を審議会へ適切に反映するとともに、専門部会間での視点のばらつきを抑え、計画全体として一体性のある施策体系の構築を図ることができます。

公募市民

さらに、公募市民については、専門部会に配置することで、市民生活の実感に基づく意見を計画へ反映させることを目的としています。少人数で分野別に議論を行う専門部会は、審議会と比較して発言機会が確保されやすく、専門的議論の中においても市民目線の意見を反映しやすい環境であると考えています。

なお、市民参加の機会については、専門部会への参画のほか、市民アンケート、各種ヒアリング調査に加え、計画案に対するパブリックコメントを実施することにより、幅広い市民意見を反映する仕組みを確保しています。

